

< Aコース (為替ヘッジあり) >

第96期末 (2021年3月17日)	
基準価額	8,306円
純資産総額	769百万円
第91期～第96期 (2020年9月18日～2021年3月17日)	
騰落率	△1.1%
分配金合計	180円

< Bコース (為替ヘッジなし) >

第96期末 (2021年3月17日)	
基準価額	8,310円
純資産総額	21億円
第91期～第96期 (2020年9月18日～2021年3月17日)	
騰落率	4.0%
分配金合計	240円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

コールセンター **0120-762-506**

(9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



**ニッセイアセットマネジメント株式会社**

東京都千代田区丸の内1-6-6

各ファンドは、投資信託約款において、運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で運用報告書(全体版)をダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【ダウンロード方法】上記ホームページ→ファンド検索→ファンド名入力→ファンド詳細ページ→運用レポート→運用報告書(全体版)

ピムコ

# 世界債券戦略ファンド (毎月決算型)

Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信 / 海外 / 債券

## 交付運用報告書

作成対象期間：2020年9月18日～2021年3月17日

第91期(決算日2020年10月19日) 第94期(決算日2021年1月18日)

第92期(決算日2020年11月17日) 第95期(決算日2021年2月17日)

第93期(決算日2020年12月17日) 第96期(決算日2021年3月17日)

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「ピムコ世界債券戦略ファンド(毎月決算型) Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)」は、このたび第96期の決算を行いました。

各ファンドは、「PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジ/クラス円」への投資を通じて、各国の債券を実質的な主要投資対象とし、安定したインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

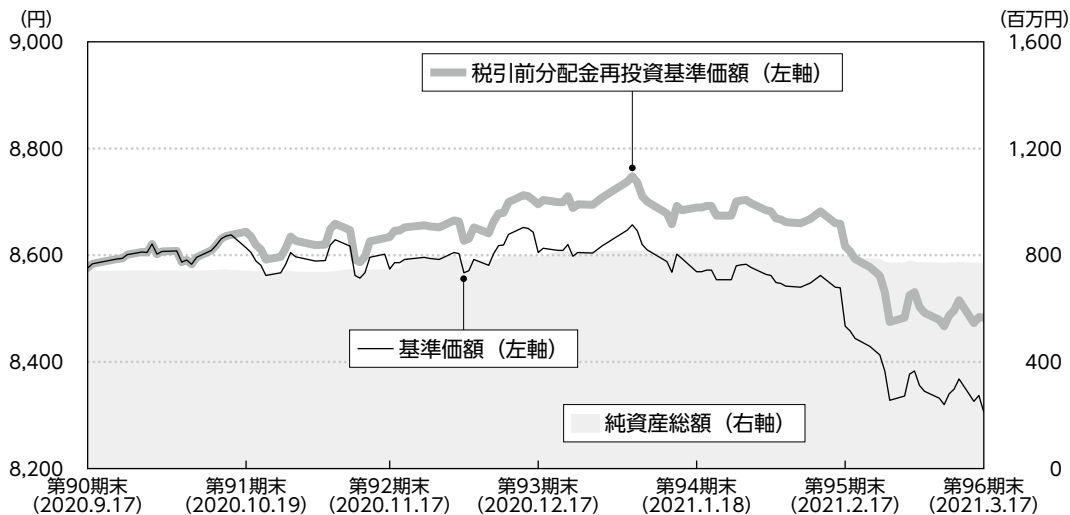
UD FONT

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

# 運用経過

2020年9月18日～2021年3月17日

## 基準価額等の推移



第91期首	8,576円	既払分配金	180円
第96期末	8,306円	騰落率（分配金再投資ベース）	△1.1%

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前作成期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドはベンチマークを設けていません。

### ■ 基準価額の主な変動要因

#### <上昇要因>

- ・ 当作成期半ばにかけて、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響や欧州中央銀行（ECB）の追加緩和策への期待感の高まりなどにより、各国債券市場が上昇したこと

#### <下落要因>

- ・ 1月上旬から当作成期末にかけて、新型コロナウイルスのワクチン接種やユーロ圏消費者物価指数（CPI）の伸び率が上昇したことなどをを受け、各国債券市場が下落したこと

## 1万口当たりの費用明細

項目	第91期～第96期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	67円	0.789%	$\text{信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は8,555円です。
（投信会社）	(38)	(0.449)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
（販売会社）	(28)	(0.326)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（受託会社）	( 1)	(0.013)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他費用	0	0.005	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	( 0)	(0.005)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
（その他）	( 0)	(0.000)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用</li> <li>・ 借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息</li> </ul>
合計	68	0.794	

(注1) 作成中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

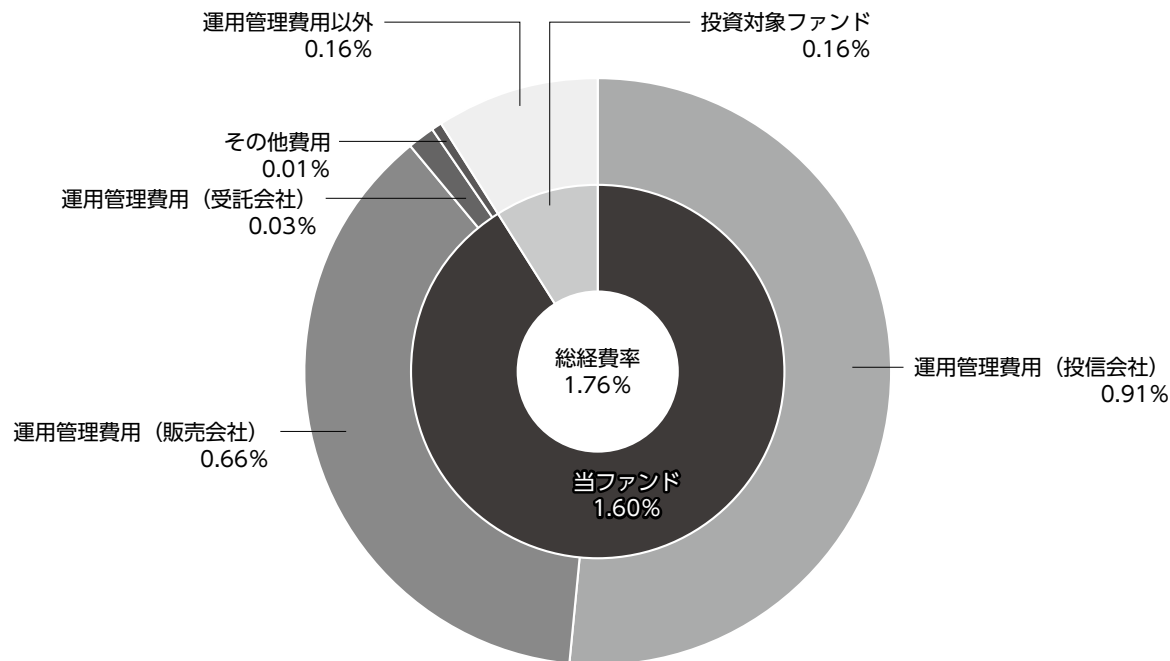
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている外国投資信託証券が支払った費用を含みません（マザーファンドを除く）。

（参考情報）

■ 総経費率

作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.76%**です。



総経費率（①+②）	1.76%
①当ファンドの費用の比率	1.60%
②投資対象ファンドの運用管理費用以外の比率	0.16%

（注1）①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

（注2）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

（注3）各比率は、年率換算した値です。

（注4）投資対象ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

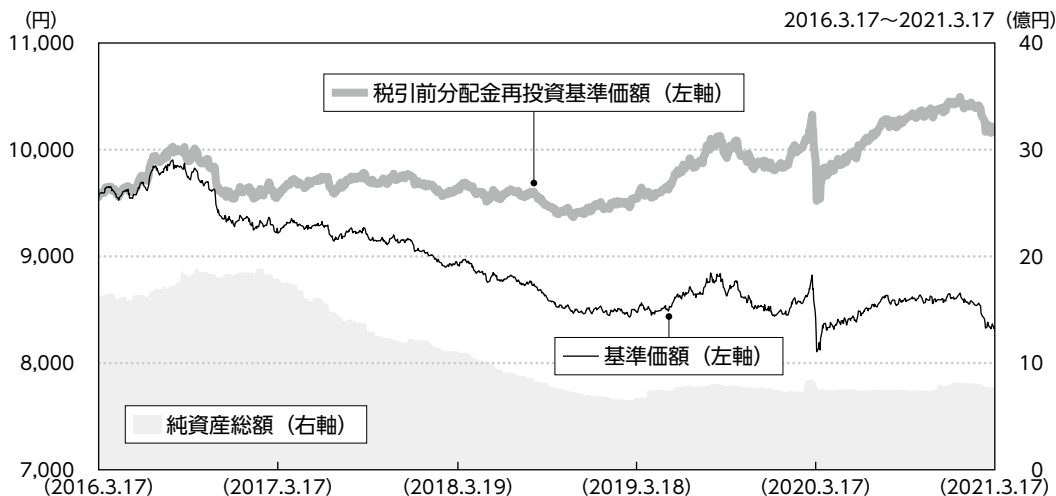
（注5）①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資対象ファンドが支払った費用を含みません。

（注6）①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

（注7）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

（注8）投資対象ファンドの運用管理費用はありません。

## 最近5年間の基準価額等の推移



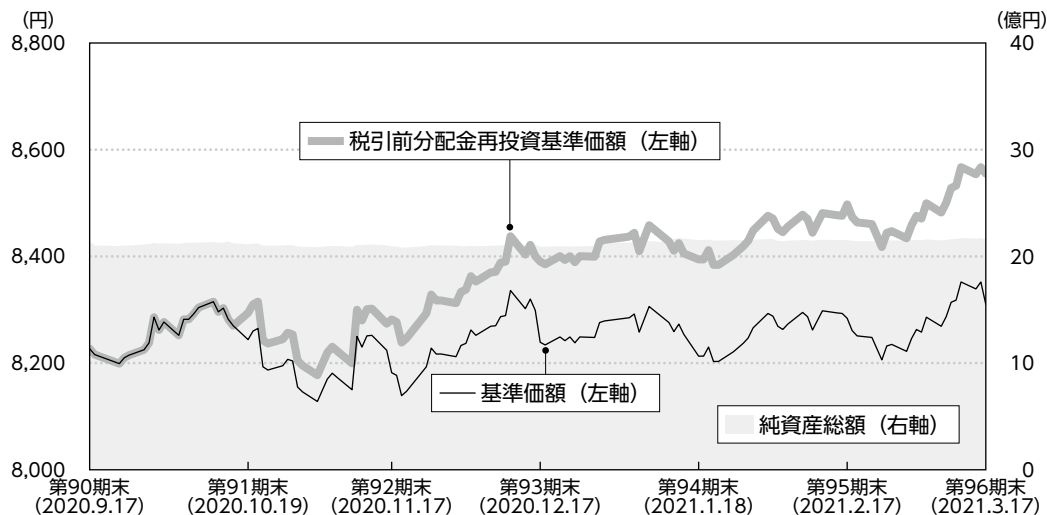
(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、2016年3月17日の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

決算日		2016年 3月17日	2017年 3月17日	2018年 3月19日	2019年 3月18日	2020年 3月17日	2021年 3月17日
基準価額 (分配落)	(円)	9,556	9,218	8,915	8,479	8,416	8,306
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	360	360	360	360	360
税引前分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	0.2	0.6	△0.8	3.5	3.0
参考指数騰落率	(%)	—	△1.8	1.0	1.5	7.7	△0.7
純資産総額	(百万円)	1,611	1,786	1,107	672	813	769

(注) 参考指数はF T S E世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジベース）です。なお参考指数の詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

## 基準価額等の推移



第91期首	8,227円	既払分配金	240円
第96期末	8,310円	騰落率（分配金再投資ベース）	4.0%

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前作成期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドはベンチマークを設けていません。

### ■ 基準価額の主な変動要因

#### <上昇要因>

- ・当作成期半ばにかけて、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響やECBの追加緩和策への期待感の高まりなどにより、各国債券市場が上昇したこと
- ・当作成期末にかけて、新型コロナウイルスのワクチン普及などを背景に、主要通貨が対円で上昇したこと

#### <下落要因>

- ・10月中旬から末にかけて、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響などにより、主要通貨が対円で下落したこと

## 1万口当たりの費用明細

項目	第91期～第96期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	65円	0.788%	$\text{信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は8,251円です。
（投信会社）	(37)	(0.449)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
（販売会社）	(27)	(0.326)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（受託会社）	( 1)	(0.013)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他費用	0	0.003	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	( 0)	(0.003)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
（その他）	( 0)	(0.000)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用</li> <li>・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息</li> </ul>
合計	65	0.791	

(注1) 作成中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

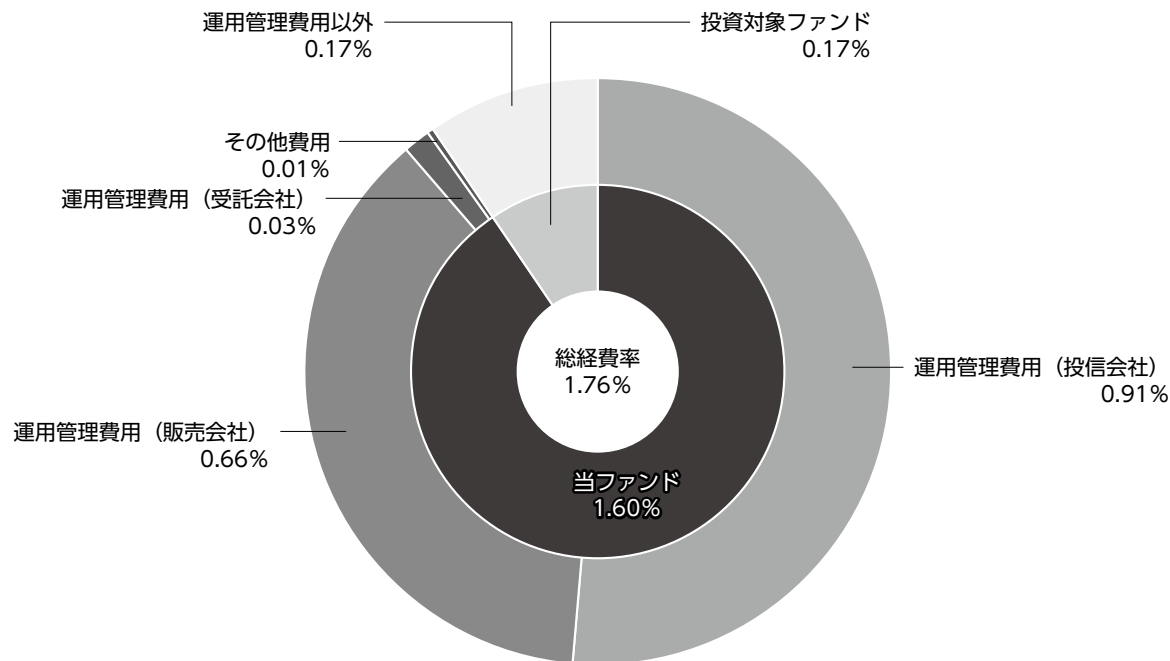
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている外国投資信託証券が支払った費用を含みません（マザーファンドを除く）。

（参考情報）

■ 総経費率

作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.76%**です。



総経費率（①+②）	1.76%
①当ファンドの費用の比率	1.60%
②投資対象ファンドの運用管理費用以外の比率	0.17%

（注1）①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

（注2）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

（注3）各比率は、年率換算した値です。

（注4）投資対象ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

（注5）①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資対象ファンドが支払った費用を含みません。

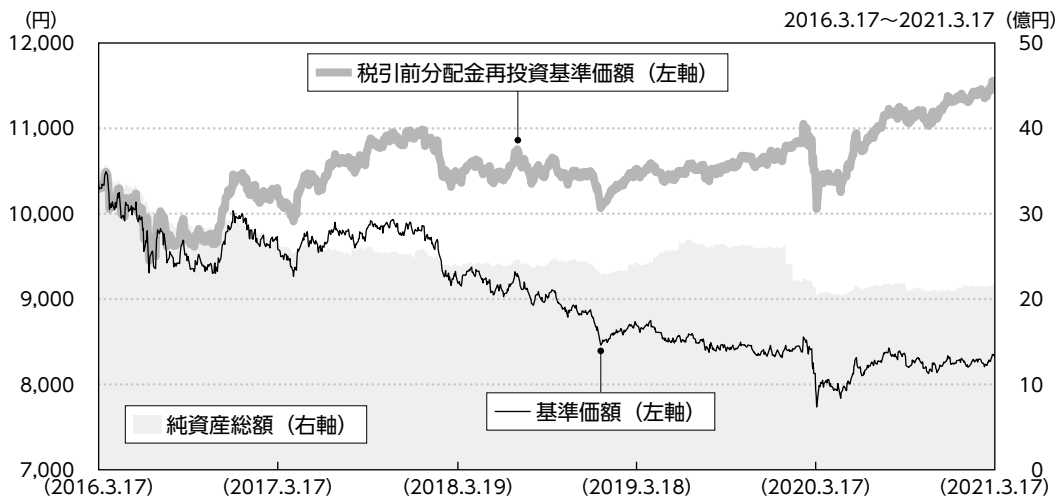
（注6）①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

（注7）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

（注8）投資対象ファンドの運用管理費用はありません。



## 最近5年間の基準価額等の推移



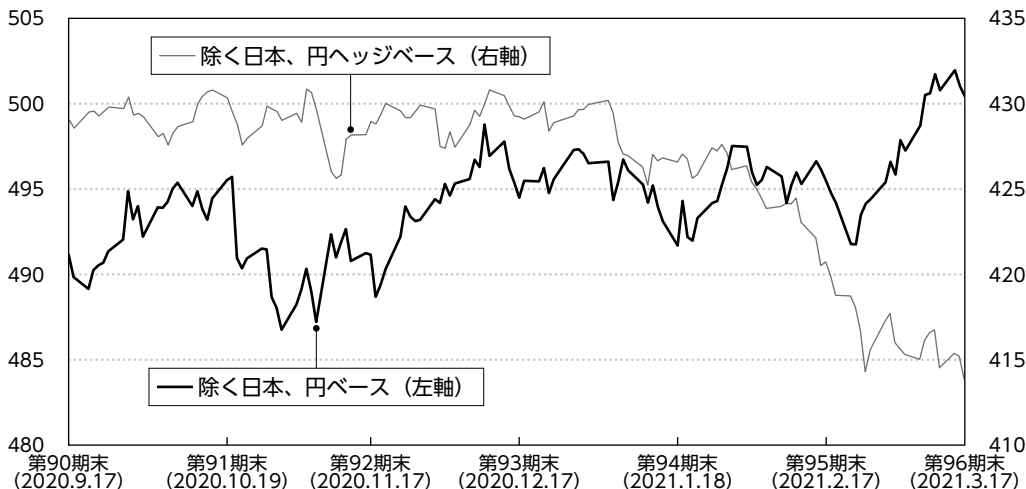
(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、2016年3月17日の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

決算日		2016年 3月17日	2017年 3月17日	2018年 3月19日	2019年 3月18日	2020年 3月17日	2021年 3月17日
基準価額（分配落）	(円)	10,335	9,583	9,185	8,695	7,940	8,310
期間分配金合計（税引前）	(円)	－	600	600	600	600	540
税引前分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	－	△1.4	2.0	1.2	△1.9	11.8
参考指数騰落率	(%)	－	△3.4	2.3	3.8	1.8	7.6
純資産総額	(百万円)	3,564	2,642	2,389	2,421	2,088	2,160

(注) 参考指数は F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）です。なお参考指数の詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

## 【F T S E世界国債インデックス】



(注) 指数はブルームバークのデータを使用しています。

## ■ 除く日本、円ヘッジベース

当作成期のF T S E世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジベース)は、インデックスを構成する各国債券市場の下落などを受けて下落しました。

米国債券市場は当作成期を通じて下落しました。当作成期半ばには新型コロナウイルスの感染再拡大や米欧の追加金融緩和への期待感の高まりなどを受けて上昇する場面が見られましたが、当作成期末にかけては米国における同ウイルスのワクチン接種の進捗や大規模な財政政策の実施に対する期待感が高まる中、景気回復期待やインフレ加速懸念等を背景に大幅に下落しました。

ドイツ債券市場は当作成期を通じて下落しました。当作成期半ばには新型コロナウイルスの感染再拡大を受けたロックダウン(都市封鎖)等の制限措置の影響やE C Bの追加緩和策への期待感の高まりなどから上昇する場面が見られましたが、当作成期末にかけてはユーロ圏の製造業が中国などの域外需要に下支えされるとの期待感が高まったことや、ユーロ圏C P Iの伸び率が上昇したことなどを受けて下落しました。

イギリス債券市場は当作成期を通じて下落しました。当作成期半ばにかけては変異種を含む新型コロナウイルスの感染再拡大などにより一時上昇しましたが、当作成期末にかけては同ウイルスのワクチン接種とロックダウンによりイギリス国内で同ウイルスの新規感染者数が減少したことなどから下落しました。

## ■ 除く日本、円ベース

当作成期のF T S E世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、為替市場において主要通貨が対円で上昇したことなどから上昇しました。

米ドル/円相場は当作成期を通じて米ドル高円安となりました。10月下旬には欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大への懸念から米ドル安円高が進行しました。当作成期末にかけては米国における新型コロナウイルスのワクチン接種の進捗や大規模な財政政策の実施に対する期待感が高まる中、景気回復期待やインフレ加速懸念等を背景に米国国債金利が大幅に上昇したことなどから、急速に米ドル高円安が進行しました。

ユーロ/円相場は当作成期を通じてユーロ高円安となりました。10月末にかけて欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大を受けた経済活動の制限措置再導入やE C Bによる追加緩和の示唆などを背景にユーロ安円高が進行しましたが、その後は同ウイルスのワクチン普及や堅調なユーロ圏の経済指標の発表などによりユーロ高円安基調で推移しました。

## ポートフォリオ

### ■ Aコース（為替ヘッジあり）

PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジへの投資を通じて、各国の債券を実質的な主要投資対象とし、安定したインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。

### ■ Bコース（為替ヘッジなし）

PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円への投資を通じて、各国の債券を実質的な主要投資対象とし、安定したインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。

### ■ PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジ／クラス円

\*ピムコ（PIMCO：パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー）の資料（現地における当作成期末の前月末営業日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

#### <債券種類別組入状況>

2月末時点では、組入比率の高い順に国債／政府機関債（73.5%）、先進国社債（16.5%）、新興国債券（9.4%）としています。

（注）比率は対純資産総額比です。以下同じです。

#### <通貨別組入状況>

2月末時点では、組入比率の高い順にユーロ（41.8%）、米ドル（37.3%）、イギリス・ポンド（7.6%）としています。

#### <格付別組入状況>

2月末時点での組入債券の平均格付はA A格となりました。

（注）格付はムーディーズ社、S & P社のうち、上位の格付を採用しています。

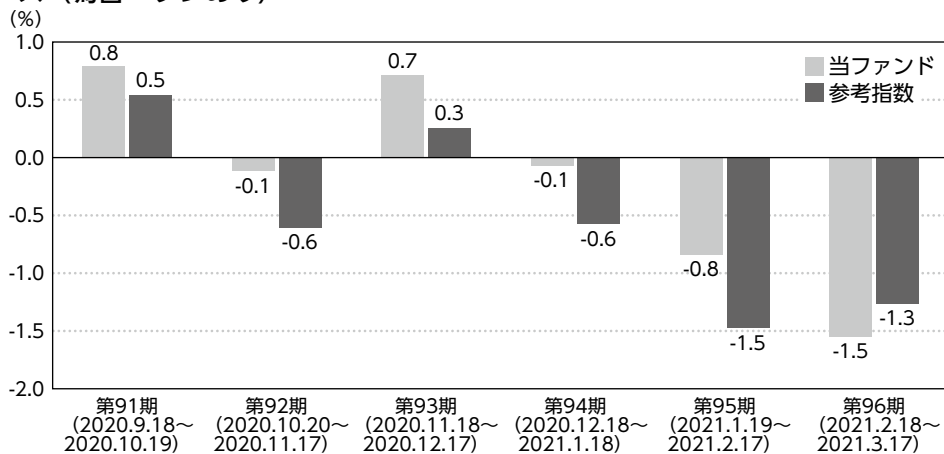
平均格付とは、投資対象ファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、各ファンドにかかる格付ではありません。

### ■ ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざしました。

## 参考指数との差異

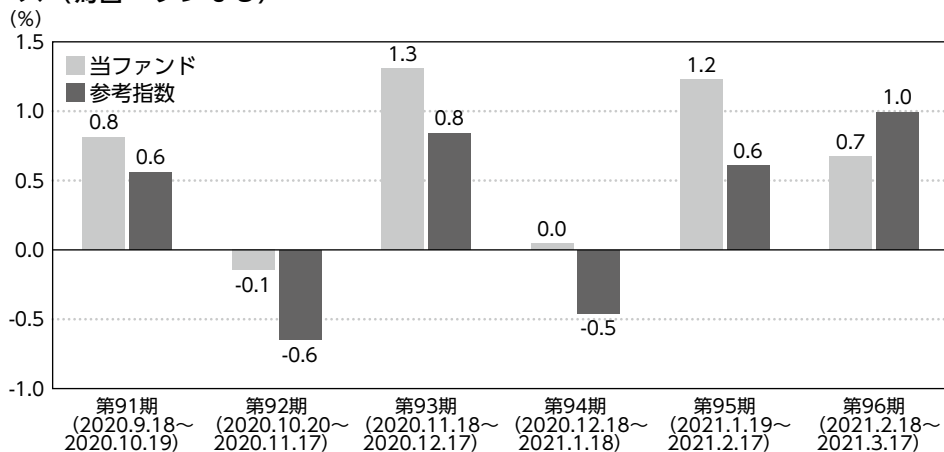
### ■ Aコース (為替ヘッジあり)



当ファンドはベンチマークを設けていません。参考指数はF T S E世界国債インデックス (除く日本、円ヘッジベース) です。

当作成期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は-1.1%となり、参考指数騰落率 (-3.1%) を上回りました。これは主にモーゲージ債や社債への多めの配分などによるものです。

### ■ Bコース (為替ヘッジなし)



当ファンドはベンチマークを設けていません。参考指数はF T S E世界国債インデックス (除く日本、円ベース) です。

当作成期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は+4.0%となり、参考指数騰落率 (+1.9%) を上回りました。これは主にモーゲージ債や社債への多めの配分などによるものです。

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注2) 参考指数の詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

## 分配金

### ■ Aコース（為替ヘッジあり）

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を考慮の上、下表の通りとさせていただきます。

なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

#### 【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	第91期 2020年9月18日 ～ 2020年10月19日	第92期 2020年10月20日 ～ 2020年11月17日	第93期 2020年11月18日 ～ 2020年12月17日	第94期 2020年12月18日 ～ 2021年1月18日	第95期 2021年1月19日 ～ 2021年2月17日	第96期 2021年2月18日 ～ 2021年3月17日
	当期分配金（税引前）	30円	30円	30円	30円	30円
対基準価額比率	0.35%	0.35%	0.35%	0.35%	0.35%	0.36%
当期の収益	30円	30円	30円	30円	27円	27円
当期の収益以外	－	－	－	－	2円	2円
翌期繰越分配対象額	1,153円	1,167円	1,183円	1,195円	1,192円	1,190円

### ■ Bコース（為替ヘッジなし）

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を考慮の上、下表の通りとさせていただきます。

なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

#### 【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	第91期 2020年9月18日 ～ 2020年10月19日	第92期 2020年10月20日 ～ 2020年11月17日	第93期 2020年11月18日 ～ 2020年12月17日	第94期 2020年12月18日 ～ 2021年1月18日	第95期 2021年1月19日 ～ 2021年2月17日	第96期 2021年2月18日 ～ 2021年3月17日
	当期分配金（税引前）	50円	50円	50円	30円	30円
対基準価額比率	0.60%	0.61%	0.60%	0.36%	0.36%	0.36%
当期の収益	38円	34円	40円	30円	30円	30円
当期の収益以外	12円	15円	9円	－	－	－
翌期繰越分配対象額	1,399円	1,383円	1,374円	1,377円	1,388円	1,396円

（注1）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

# 今後の運用方針

## ■Aコース（為替ヘッジあり）

PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジへの投資を通じて、各国の債券を実質的な主要投資対象とし、安定したインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

## ■Bコース（為替ヘッジなし）

PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円への投資を通じて、各国の債券を実質的な主要投資対象とし、安定したインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

## ■PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジ／クラス円

新型コロナウイルスのワクチン接種の開始や財政・金融政策による支援の継続を背景に、2021年の世界経済は堅調に回復するとみています。ただし、主要先進国の財政政策や中国における金融政策の転換といった短期的なリスク要因に加え、米中の対立、ポピュリズム（大衆迎合主義）の台頭などの長期的なリスク要因が世界経済や市場に及ぼす点に注意が必要であると考えます。

米国については、家計セクターは債務が低水準にあるなど引き続き健全性を維持しており、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融緩和政策や過去最大規模の大型財政出動による下支えもある中、一定程度の回復が見られます。また、ねじれ議会が解消したことで、バイデン新政権が新型コロナウイルスの救済策やインフラ関連法案などを推し進めていくことが期待されます。ただし、上院における民主党議席は僅差での過半数の獲得に留まるため、今後これらの政策が円滑に実現するかについては注意が必要です。

ユーロ圏については、大規模な財政刺激策が続き、総額7,500億ユーロの欧州復興基金は特にユーロ周縁国および東欧諸国の景気を押し上げる要因になると予想しています。一方、新型コロナウイルスワクチンの生産および供給面での問題から接種の遅れが生じる可能性についてはリスク要因であると考えているものの、ワクチン普及は総じて景気にプラス材料になるとみています。

イギリスについては、2020年1月末に正式に離脱した欧州連合（EU）との貿易協定に関しては一部不透明感が残るものの、大きな波乱要因に発展する可能性は以前と比較して低いとみています。また、国内で新型コロナウイルスのワクチン接種が順調に進んでいることや段階的にロックダウンが解除される点などは、景気にプラス材料になるとみています。

ファンドの運用戦略に関しては、デュレーションはベンチマーク対比でアンダーウェイトとし、国・地域・年限間の相対価値を重視して投資します（イタリア、デンマーク、オーストラリアの金利リスクを多め、米国、ユーロ圏コア国、イギリスの金利リスクを少なめ）。また、セクター戦略については、社債や資産担保証券の中でリスクを考慮しても魅力的と考えられる利回りを提供する銘柄に選択的に投資します。

（注）デュレーションとは、債券投資におけるリスク度合いを表す主要な指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表します。デュレーションが長いほど、金利変動に対する債券価格の反応は大きくなります。

## ■ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざします。

# ファンドデータ

## ピムコ世界債券戦略ファンド（毎月決算型） Aコース（為替ヘッジあり）の組入資産の内容

### 組入ファンド

	第96期末 2021年3月17日
PIMCOパミュダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジ	98.9%
ニッセイマネーマーケットマザーファンド	0.0

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

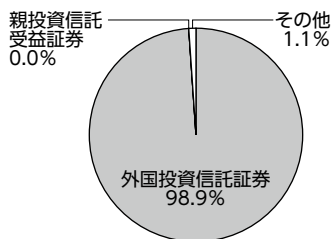
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

### 純資産等

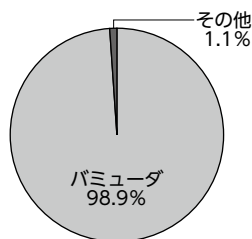
項目	第91期末 2020年10月19日	第92期末 2020年11月17日	第93期末 2020年12月17日	第94期末 2021年1月18日	第95期末 2021年2月17日	第96期末 2021年3月17日
純資産総額	742,250,749円	745,325,785円	794,889,288円	810,418,928円	798,441,771円	769,210,330円
受益権総口数	861,718,995口	869,258,639口	923,784,374口	945,748,766口	942,953,107口	926,069,255口
1万口当たり基準価額	8,614円	8,574円	8,605円	8,569円	8,467円	8,306円

(注) 当作成期間（第91期～第96期）中における追加設定元本額は122,919,688円、同解約元本額は69,671,430円です。

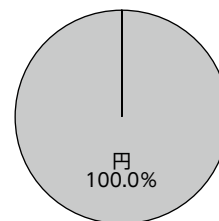
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2021年3月17日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

## ピムコ世界債券戦略ファンド（毎月決算型） Bコース（為替ヘッジなし）の組入資産の内容

### 組入ファンド

	第96期末 2021年3月17日
PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円	98.5%
ニッセイマネーマーケットマザーファンド	0.0

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

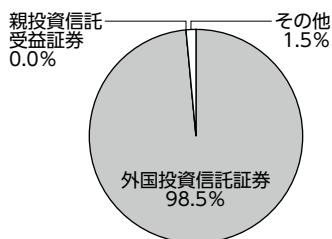
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

### 純資産等

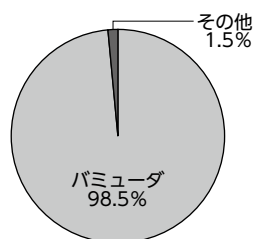
項目	第91期末 2020年10月19日	第92期末 2020年11月17日	第93期末 2020年12月17日	第94期末 2021年1月18日	第95期末 2021年2月17日	第96期末 2021年3月17日
純資産総額	2,114,572,536円	2,093,178,365円	2,091,427,321円	2,152,611,582円	2,152,502,683円	2,160,605,316円
受益権総口数	2,565,085,741口	2,558,158,223口	2,538,419,100口	2,620,856,508口	2,598,528,726口	2,600,083,779口
1万円当たり基準価額	8,244円	8,182円	8,239円	8,213円	8,284円	8,310円

(注) 当作成期間（第91期～第96期）中における追加設定元本額は169,604,843円、同解約元本額は171,047,191円です。

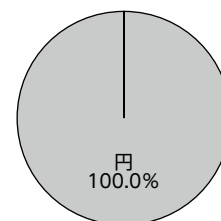
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分

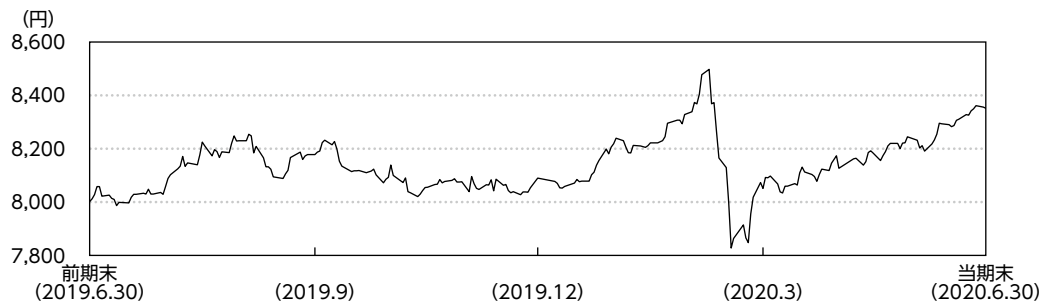


(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2021年3月17日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

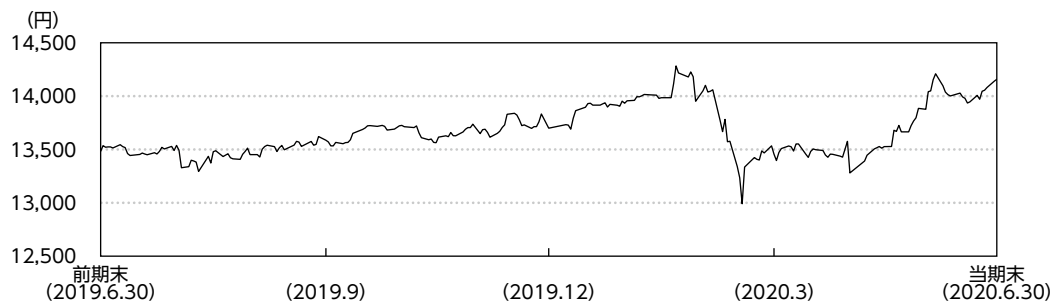


■ 税引前分配金再投資基準価額の推移

< PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジ >



< PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円 >

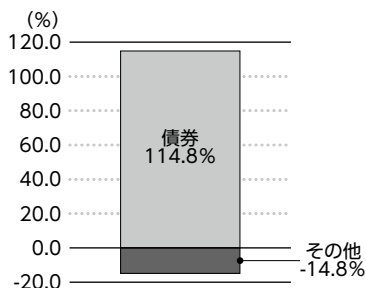


(注) 税引前分配金再投資基準価額の推移は、外国投資信託証券の直近の決算期のものであり、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

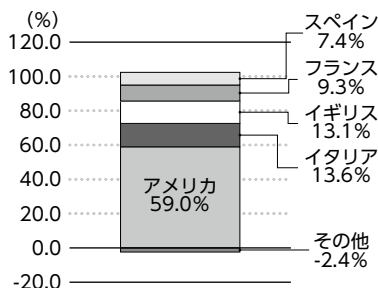
## ■ 上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
FNMA TBA 3.5% AUG 30YR	米ドル	10.3%
FNMA TBA 2.5% SEP 30YR	米ドル	7.9
FNMA TBA 2.5% AUG 30YR	米ドル	3.9
CHINA DEVELOPMENT BANK	人民元	2.3
FNMA TBA 2.5% JUL 30YR	米ドル	2.3
ITALIAN BTP BOND	ユーロ	2.1
CMLTI 2006-WFH4 M2 1MLIB+29BP	米ドル	2.0
FRANCE (GOVT OF)	ユーロ	2.0
FRONTIER FINANCE PLC SR UNSEC	イギリス・ポンド	2.0
UK GILT 4.25 12/07/2040 BD	イギリス・ポンド	1.8
組入銘柄数		354

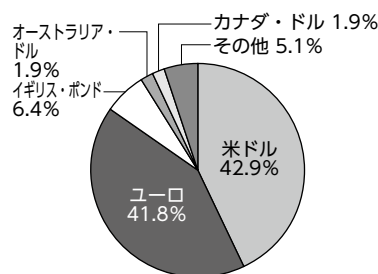
## ■ 資産別配分



## ■ 国別配分



## ■ 通貨別配分



(注1) 組み入れているのは「PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジ/クラス円」ですが、投資信託証券が投資している「PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド」の投資資産を表示しています。

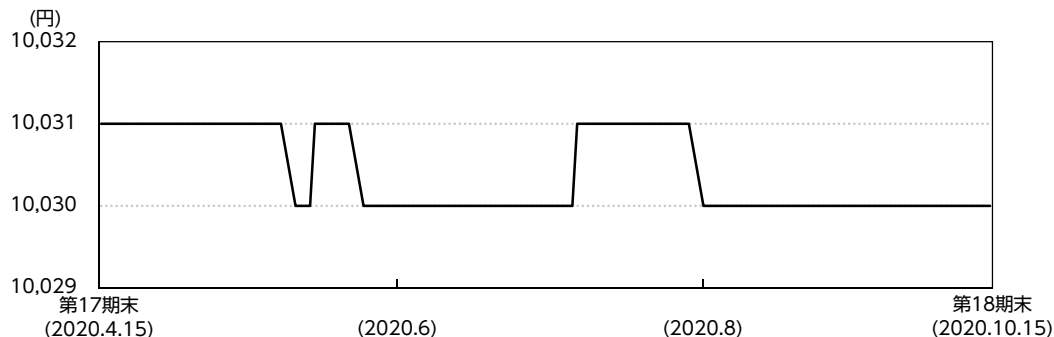
(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、外国投資信託証券決算日（2020年6月30日現在）のものであり、比率は外国投資信託証券の純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はピムコ（PIMCO：パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー）の分類によるものです。

(注3) 1万口当たりの費用明細は、入手が困難であるため記載していません。

(注4) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の投資有価証券明細表をご参照ください。

# ニッセイマネーマーケットマザーファンドの概要

## ■ 基準価額の推移



## ■ 上位銘柄

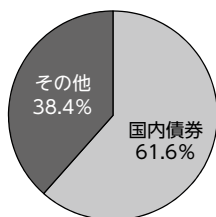
銘柄名	通貨	比率
平成22年度し号 滋賀県非公募公債	円	21.9%
平成22年度第1回 岡山県公募公債	円	19.8
平成28年度第3回 京都市公募公債	円	19.8
組入銘柄数	3	

## ■ 1万口当たりの費用明細

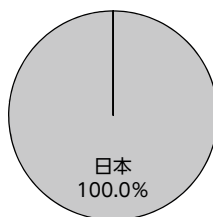
2020.4.16~2020.10.15

項目	金額
その他費用	0円
(その他)	(0)
合計	0

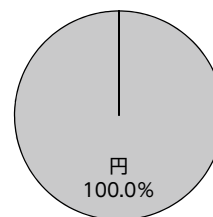
## ■ 資産別配分



## ■ 国別配分



## ■ 通貨別配分

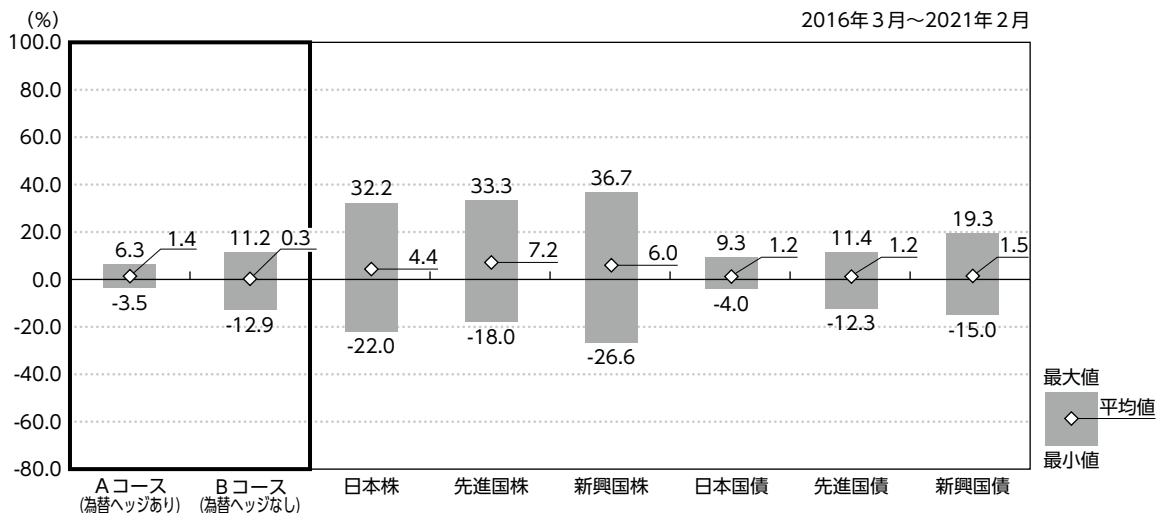


(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日(2020年10月15日現在)のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)の組入有価証券明細表をご参照ください。

■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注1) 上記は、各ファンドの騰落率（税引前分配金再投資基準価額騰落率）と代表的な資産クラスの騰落率を比較したものであり、各資産クラスは各ファンドの投資対象を表しているものではありません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、各ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。

< 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

- 日本株・・・TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
- 先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
- 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
- 日本国債・・・NOMURA-BPI 国債
- 先進国債・・・FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
- 新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ベース）

- ・すべての資産クラスが各ファンドの投資対象とは限りません。
- ・海外の指数は、「為替ヘッジなし（対円）」の指数を採用しています。

\*各資産クラスの指数につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

## 指数に関して

### ■ ファンドのベンチマーク等について

- ・ F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジベース）  
F T S E 世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- ・ F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）  
F T S E 世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ■ 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数について

- ・ T O P I X（東証株価指数）は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよびT O P I X（東証株価指数）の商標または商標に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- ・ M S C I コクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ M S C I エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ N O M U R A - B P I 国債とは、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、各ファンドの運用成果等に関し、一切責任を負いません。
- ・ F T S E 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- ・ J P モルガン G B I - E M グローバル・ディバーシファイドは、J P モルガン社が算出する債券インデックスであり、その著作権および知的所有権は同社に帰属します。

# お知らせ

## ■「Aコース（為替ヘッジあり）」の自社の実質保有比率

2021年2月末現在、当ファンドの主要投資対象であるニッセイマネーマーケットマザーファンドの信託財産において、当社は、当該マザーファンド受益証券を他のベビーファンドを通じて実質的に99.2%保有しています。当該実質保有分は、当社により他のベビーファンドを通じて解約されることがあります。

## ■「Bコース（為替ヘッジなし）」の自社の実質保有比率

2021年2月末現在、当ファンドの主要投資対象であるニッセイマネーマーケットマザーファンドの信託財産において、当社は、当該マザーファンド受益証券を他のベビーファンドを通じて実質的に99.2%保有しています。当該実質保有分は、当社により他のベビーファンドを通じて解約されることがあります。

# 各ファンドの概要

		Aコース（為替ヘッジあり）	Bコース（為替ヘッジなし）
商 品 分 類	追加型投信／海外／債券		
信 託 期 間	2013年3月22日～2023年3月17日		
運 用 方 針	外国投資信託証券への投資を通じて、各国の債券を実質的な主要投資対象とし、安定したインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。		
	外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。		外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
主要運用対象	ピムコ世界債券戦略ファンド （毎月決算型）	「PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジ」および「ニッセイマネーマーケットマザーファンド」	「PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円」および「ニッセイマネーマーケットマザーファンド」
	PIMCOバミューダ・グローバル・ボンド・エクス・ジャパン・ファンド クラス円ヘッジ/クラス円	日本を除く先進国の国債・モーゲージ債・社債等	
	ニッセイマネーマーケットマザーファンド	円建ての短期公社債および短期金融商品	
運 用 方 法	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ・外貨建資産への直接投資は行いません。 ・デリバティブの直接利用は行いません。 ・株式への直接投資は行いません。		
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。		